

目次

はじめに——紫式部と源氏物語

3

第一章 男たちの女性談義

光源氏	女は上中下の三階級だけなのか	16
左馬頭	妻にするならこんな女	18
左馬頭	出家してみせる妻	20
左馬頭	やきもち焼きの女	22
左馬頭	色っぽくて仇めいた女	24
頭中将	愚かな女	26
藤式部丞	ニンニク臭い女	28
左馬頭	迷惑が分からない女	30
【コラム①】	千年前の平安貴族の恋物語	32

第二章 危険な恋のはじまり

藤壺	胸を焦がす理想的な人	34
藤壺	一夜つきりにしたかったのに	36
藤壺	懐妊に苦悩はますます募る	38
藤壺	源氏の渾身の舞に	40
空蝉	柔軟で芯の強い人	42
空蝉	一時の気まぐれの逢瀬が悲しい	44
空蝉	いっそ情け知らずの嫌な女に思われよう	46
空蝉	惹かれながらも心に秘める	48
空蝉	癪に障るけど、忘れられない女	50
弘徽殿女御	愛人の子に息子の出世が阻まれる不安	52
弘徽殿女御	死んでなお夫を虜にする愛人が許せない	54
弘徽殿女御	気が強く陰のある人柄	56

第三章 溺れる恋の報い

- 夕顔 気品をもって積極的に誘う
- 夕顔 従順なかわいい人
- 夕顔 たいそうかわいらしくきゃしゃな人
- 夕顔 汗びっしょりになって正気を失う
- 夕顔 このままどこかに消えてしまいかもしれない
- 六条御息所 度を越して思い詰める性格
- 六条御息所 自尊心が傷つき、心のやりどころもない
- 六条御息所 屈辱のうちに行列の源氏を見る
- 六条御息所 悩みが深く、魂が抜け出していく
- 六条御息所 未練を断ち切ったのに、逢えば心が揺れる
- 六条御息所 娘だけは憂き目を見ることがないように

第四章 運命のいたずら

- 葵上 端然と整っていて乱れない美しい人
- 葵上 好きな人に忘れられるという経験をすればいいのに
- 葵上 恋仲でもあるまいし、と呆れる
- 葵上 自尊心が傷つき、もう一緒にいたくない
- 葵上 瀕死の病床から睨みつける、悲痛と恨めしさ
- 葵上 この上なく美しく素晴らしい人
- 葵上 裏切りを飲み込んで、子を引き取る懐の深さ
- 葵上 垣間見るだけでも愛おしい
- 葵上 出家を願い、せめて来世は心安らかに
- 葵上 自分の死際も、源氏を思いやる
- 葵上 恋しさ、悲しみを持って余す

紫上	外国にやってきたような夢心地	106
末摘花	判断力を失うほど混乱している	108
末摘花	田舎臭くて時代遅れで、変に大げさな人	110
末摘花	苦境を耐え忍び待つ	112
「コラム④」	平安時代の優雅な嗜み	114

第五章 夢のお告げに導かれ

明石の君	とるに足りない身分だが気品高い人	116
明石の君	身分違いのひどく悩みの多い結婚生活	118
明石の君	情けない身の上を嘆く	120
明石の君	娘を手放す悲しみ	122
玉鬘	気品高く清純な美しい人	124
玉鬘	恥ずかしさで体が震える	126
玉鬘	蛍の光は思いを燃やしている	128

玉鬘	髪を触られて身を固くする	130
玉鬘	野暮な夫に源氏を懐かしむ	132
真木柱	どうか私を忘れないで	134
女三の宮	子どもつぼくきやしやな人	136
女三の宮	思慮が足らず幼い	138
女三の宮	花も忘れて鞠に熱中している	140
女三の宮	理性の抑制が効かない恋愛	142
光源氏	睨みいびり殺す	144
光源氏	堪えがたい悲しさで手紙を焼き捨てる	146
人物相関図①	光源氏の青春期	148
人物相関図②	光源氏の壮年期	150
光源氏の恋愛年表		152
六条院と女性		154
平安京図と二条院・六条院		155
全帖早わかり表		156